

もったいない! 未来のために
母の視点で **よりも** で見直し
次世代に借金、リスクを残さない

県議会議員

西村久子 県政報告

第29号

発行 西村久子

彦根市甲崎町

TEL・FAX 43-4700

Eメール hisako@country-farm.net



今日 **よりも** 明日

「自民党滋賀県議会議員団」26人の過半数で結束… 見渡す限り万物躍動の好季節、お変わりございませんか。「千年に一度の災害が起こった。百年に一度の治水政策は、もったいないのでしょうか。もったいないで命が救いきれるのか、一度に出来ないからこそ、計画的に進めなければ…」と、地域の防災を訴え続けた春の統一地方選挙、大きなご支援をいただき、ありがとうございました。

時がたてば、平穏無事に季節が移るとは今日までの思いでございましたが、3月11日の東日本大震災以後、それは一変してしまいました。想像を絶する大津波や、今なお収束の見られない原発事故の限りない不安、重ねまして犠牲となられました皆さんに、心から哀悼のまことを捧げ、被災地の皆さんへのお見舞いと、国をあげての支援のもとに、一日も早い復興を願うものです。

たちまちにして予測される電力不足も、全国民の節電や更なる工夫が求められますが、再建に向けての動きは大きな経済活動となって全国に波及する事となります。各地域での活動が、全て被災地の復興につながることを信じ、前進し続けることが必要と考えています。

今回、多くのご期待をいただいた自民党は県議会47議席中、26議席を与えていただきました。地域の思いを国・県・市に届けることはもとより、初心を忘れることなく未来を見据え皆様と意見を交換しながら、県民生活のしあわせづくりに全力を尽くしてまいりたいと考えております。本年度私は、防災対策特別委員長をお預かりする事となりました。どうぞ引き続きご指導いただきますよう、お願い申し上げます。



5月臨時議会

議長 家森茂樹 (自民) 副議長 佐野高典 (自民) 監査 山田和廣 (自民)

滋賀県議会会派構成

自民党滋賀県議会議員団 (26人)

民主党・県民ネットワーク (12人)

対話の会・しがねっと (5人)

公明党 (2人)

みんなの党滋賀 (1人)

無所属 (1人)

3月定例議会一般質問(抜粋)

琵琶湖の水と下水の疑問について…

琵琶湖の水質について、企業廃水は厳しい規制がかけられていて廃出者責任においてしっかり処理されている。家庭廃水においても下水道整備が次第に進められ、これも解消に向かっている。残るは農業廃水です。と断定されるように農業廃水は琵琶湖汚濁の1/4を占めると悪者扱いされてきました。

確かに、私の近くの宇曾川は、5月の田んぼの代掻き時、県下で一番の濁水河川として非難をかって来ました。とてつもなく流域に広がる農地の広大な川であります。そして、二番目の濁水河川は私の足元文禄川と聞き、限られた農地の廃水であり大きな負い目を感じてきていました。

そんなところから、私は環境こだわり農業に関心を持って率先して取り組みもし、県の支援をいただきながら、農家の理解を広め農家全体で取組まねば…の想いで努力を続けてまいりました。しかし、残念ながら5月の濁水解消には至っていませんが、環境こだわり農業は、その取り組み面積の拡大により、確実に本県の特色として定着しつつあることは歓迎です。そこで、先ず、琵琶湖の水質について、環境こだわり農業が従前と比べてどれほどの効果を得ているのか、農政水産部長にお聞きします。

(答) 本県の環境こだわり農業の取組につきましては、平成13年度から取り組みを始めておりまして、10年を経過した現在、その取組面積は全国一を誇っており、今年の2月現在では、作付全体で14,000ヘクタールを越えております。中でも水稲におきましては11,790ヘクタール、作付面積の36.3パーセントまで、拡大をしてくれているところでございます。

その様な取組の中で、例えば県全体の化学合成農薬の使用量は、環境こだわり農業に取り組む前の平成12年度と比較をいたしますと約1/3が削減をされています。また、化学肥料につきましても使用量の削減とともに、約7割の農家のみなさんが、肥料成分の流出を防ぎます、いわゆる施肥田植機を使用いただいていること、さらに、できるだけ少ない水で代かき作業を行う浅水代かきにより濁水防止対策などに努めていただけてきたことから、県内主要河川の田植時期の透視度は、一定の改善傾向がみられるところでございます。

これらの結果は、昨年6月に公表されました、平成21年度の公共用水域におけます水質測定結果にも見られ、例えば琵琶湖の透明度は北

裏面につづく

湖・南湖ともに近年上昇傾向にあり、また、窒素につきましても北湖・南湖いずれも昭和54年の観測以来、最も低い数値を示す結果となって現れております。

こうした琵琶湖の水質改善傾向の中で、環境こだわり農業の取組が、どれだけ影響しているのかを、具体的な分析数値でお示しすることは困難ではございますが、環境にこだわった農業の生産活動が水質改善に寄与していることは確かでありますことから、今後とも生産者の皆様のご理解をいただきながら、琵琶湖を中心とした本県の豊かな自然環境と共存する農業の展開に努めてまいりたいと考えております。

近年漁業をされている方々から、網が筵のようになる・・・と聞くことを聞きました。どろどろになって汚れが取れない・・・と言われるのです。琵琶湖の水はきれいになっているはずなのに不思議なことです。そして、更に、魚はいるのだけれど、沿岸部に寄り付かない・・・とも聞きました。また、琵琶湖の北に行くほどそれがより著しい現象となっているそうです。

琵琶湖の浜欠けが起きるようになってから、水の流れる方向に近くの住民は気づいてきました。湖水は時計回りに流れていると聞いてきましたが、砂の動きから沿岸部はその反対、左回りになっているようです。そのことと重ね合わせて、魚の寄り付かなくなったといわれる北の沿岸部に何か異変が起こっているのではないのか、網の汚れも何が原因しているのか、難分解性物質とは、何であるのか、既に調査研究されていることと思いますが、琵琶湖環境部長にお尋ねします。

(答) 北湖の沿岸部の異変や、漁網の汚れ、難分解性物質に関するご質問にお答えをいたします。

これまで、県が実施をしてまいりました工場排水の規制や下水道の整備などの水質保全施策によりまして、琵琶湖に流入する汚濁負荷量は大幅に削減がされてまいりました。

その結果、透明度が上昇するなど総体的には水質は改善をされてきており、富栄養化の進行が抑えられているというふうに考えております。しかしながらその一方で、水質汚濁の指標の一つであります化学的酸素要求量(COD)につきましては、1985年から2000年頃にかけて少しずつ上昇した後、横ばい傾向にあり、低下の兆しが見られていない状況でございます。

このため、琵琶湖環境科学研究センターを中心に、平成19年度から水質汚濁メカニズム解明調査を実施をしておりますが、これにより、環境中でなかなか分解しない物質、すなわち、難分解性の有機物の増加がその主たる原因であることが分かってまいりました。

また、議員ご指摘の沿岸部の状況や、漁網の汚れ、また、水質と植物プランクトンの関係などにつきましても、この調査の一環として解明を進めているところでございます。

難分解性有機物の問題や水質と植物プランクトンの種類や数の変化との関係など、湖沼の水質汚濁メカニズムに関する調査・研究は世界的にも残念ながら進んでおらず、高度な調査・分析技術と専門的な知見の積み重ねが求められているところであります。引き続き、関係機関との連携のもと、精力的に調査・研究を進めてまいりたいと考えております。その際には議員からご提案のありましたように、現場の漁師さんの声にも十分耳を傾けて取り組みを進めてまいりたいというふうに考えております。

彦根市の旧港湾、そして彦根城お堀の水には、東北部下水処理水が流入しています。当初泳ぐ魚が見えるようにきれいになる・・・と言われておりましたが、なかなかそうは参りません。物凄い藻の繁殖、高度処理がされてからも、藻の状態は代わらず、アオコの浮くことも

あります。数値的には浄化されていても、何かの部分で問題を有しているように思います。

ところが、昨年、近くの幹線排水路で、毎年なら年間6回集落総出の藻とり作業をしている川が、なぜか藻の繁殖が少なく3回の藻取り作業で済み、魚の上り具合がよかったです。近くに養魚場があって、流出する残った餌や魚の排泄物の関係もあったのでしょうか、今まで藻の繁殖がものすごくあった川なのに特段きれいになりました。魚ののぼりがよくなると、川藻の新芽が食べられて、生育が抑えられるようです。養魚場において何か隠された努力があるのかもしれませんが、下流の水辺状況が好転しているようです。



湖岸に住む者の推測でしかありませんが、沿岸部に魚が寄り付かないということは、魚の餌となるものがなくなっているのではないかと、エリは琵琶湖の自慢の漁法と唄われてきましたが、深刻な状況にあるそうです。もし下水処理に起因するのであれば、という不安がよぎります。

今、滋賀県では、矢橋の水環境化学館を下水道ハブとして手を上げておられます。現在ハブ化に手を上げているのは、横浜市と滋賀県だけであると聞いていますし、とても期待のもてる事業であって、是非成功して欲しいと願っています。

処理水を更に浄化する高度処理等、集積した技術に加え環境破壊を克服してきた滋賀は有望な候補と国の評価を得ているようですが、琵琶湖に不明の課題があるのも事実です。

限られた水面を持つ琵琶湖であるから分かる課題であるのかも知れませんが、より純度の高い水再生に向けての浄化が求められると思います。

下水道ハブ誘致成功とあわせて早期の原因究明が是非必要であり、科学的知見にプラスして、琵琶湖で生業を続けてこられた漁師さんの鋭い勘による意見にも耳を傾けられ、謎を解明する事が県民の安心・安全につながります。地球の小さな窓といわれる琵琶湖に起っている疑問を、善処できないままでの世界に向けたハブ化構想の実現に疑問を持つのですが、如何でしょうか、所見を求めます。

(答) 琵琶湖では、赤潮やアオコの発生などの富栄養化に起因する事象が現れたため、先ほど申し上げましたように、工場排水の規制や下水道の整備など各種の施策を進めてきたところでございます。

中でも、昭和57年4月から施設稼働をいたしました湖南中部浄化センターでは、当時一般的に行われていた有機物の処理に加えまして、我が国最初の窒素・りんを除去する高度処理を実施したところであり、これによりまして人口が増加する中にありまして、琵琶湖に流入する汚濁負荷の削減に、大きな効果があったところでございます。

母なる琵琶湖を預かる本県が、下水道ハブの誘致を通して、これまで培ってきた先進的な水処理技術や琵琶湖を中心とした水環境への取り組みの経験を活かしまして、世界の水質環境の改善に貢献をすることは、本県のいわば使命と言ってもよいのではないかと考えております。

まだまだ分かっていないことが多いわけですが、水質汚濁メカニズムの解明調査につきましては、ただ今ご説明を申し上げましたように、これまで以上に精力的に取り組む中で、水環境と関わりの深い下水道ハブ施設の誘致に取り組んでまいりたいと考えております。



西村久子事務所

彦根市甲崎町19-1 (稲枝北駐在所より西へ約100m 南側道路沿い)
定例政調会 第1金曜日 午後7時～10時

ご意見を
お聞かせください。 Tel 0749-43-2020 Fax 0749-43-4700

西村久子ホームページ (ブログ)

西村久子 活動日記

<http://nishimura-hisako.net/>

